

謹賀新年 ききょう苑通信



発行月
2021年1月
第19号



発行：医療法人社団 松和会 介護老人保健施設
「ききょう苑」(年4回発行、創刊2016年4月1日)
〒259-1126 神奈川県伊勢原市沼目 6-1237
Tel: (0463) 92-8101 ☐ kikyō-en@showakai.or.jp

あけましておめでとーいします。

皆様のご健康、ご多幸を

心より、お祈りしています。

2021年 元旦

ききょう苑 職員一同

新年を迎えて

2000年に創設した「ききょう苑」は、昨年11月1日、おかげさまで、20周年を迎えることができました。

これも、行政、医療関係各位、地域の皆さん、そして多くの方のご指導、ご支援により、ご利用していただけた多くの皆さんのお陰と深く感謝しています。

2021年、新年を迎え、これを機に、もう一度、創設時の理念を見直し、職員一同、その理念、役割、そして意識を胸に、より良い施設をめざします。

リハビリはもちろん、当たり前前の生活を

「ききょう苑」は、介護老人保健施設としてリハビリテーションを軸として、より良い生活の質を高めるお手伝いすることが目標です。

それゆえ、「ききょう苑」では、「個」を大切に、これからも、一人一人が目標を決めて、当たり前前の生活をめざしたリハビリテーションを強化して行きます。

ご利用者とご家族だけでなく、地域、行政からも、そして、職員からも、「利用してよかった、知ってよかった」と言っていただけの施設づくりをめざします。

(施設長 小澤 明)



住み慣れた環境に戻るために！

「自宅退所に向けた予定表の活用」

ききょう苑入所事業部門では、ご利用者が安心して、慣れ親しんだご自宅などで暮らしを継続できることを目的に「在宅復帰・在宅支援」に向けた取り組みを行っています。

2017年以降、当苑へ入所されたご利用者が、ご自宅へ復帰された割合(在宅復帰率)は増加しており、2020年度(4月～11月)では、ききょう苑を退所されたご利用者のうち、56%のご利用者が、ご自宅での生活に復帰することが可能になっています(図1参照)。

「在宅復帰・在宅支援」をより円滑に行うため、入所中に解決すべき課題や、課題を解決する時期の目安をまとめた「退所に向けた予定表」(以下、予定表)を作成しています。予定表を活用し、職員間で情報を共有することで、チーム全体で在宅復帰に向けた支援を行っています。

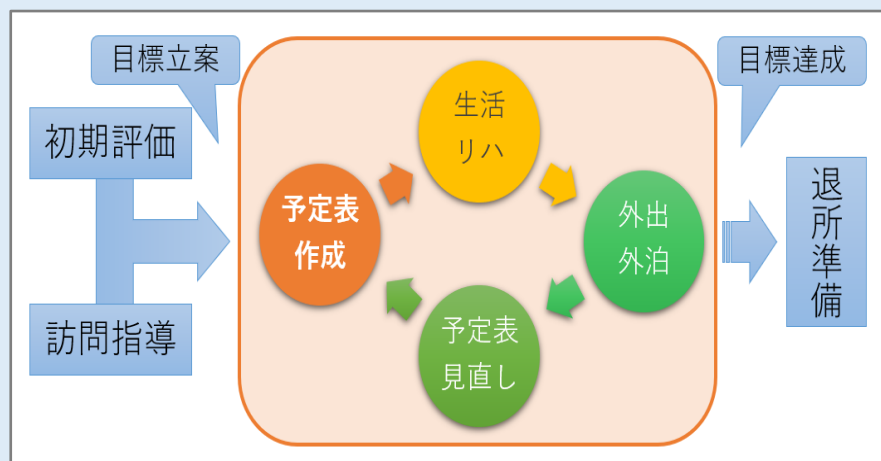


図2：退所予定表の活用方法

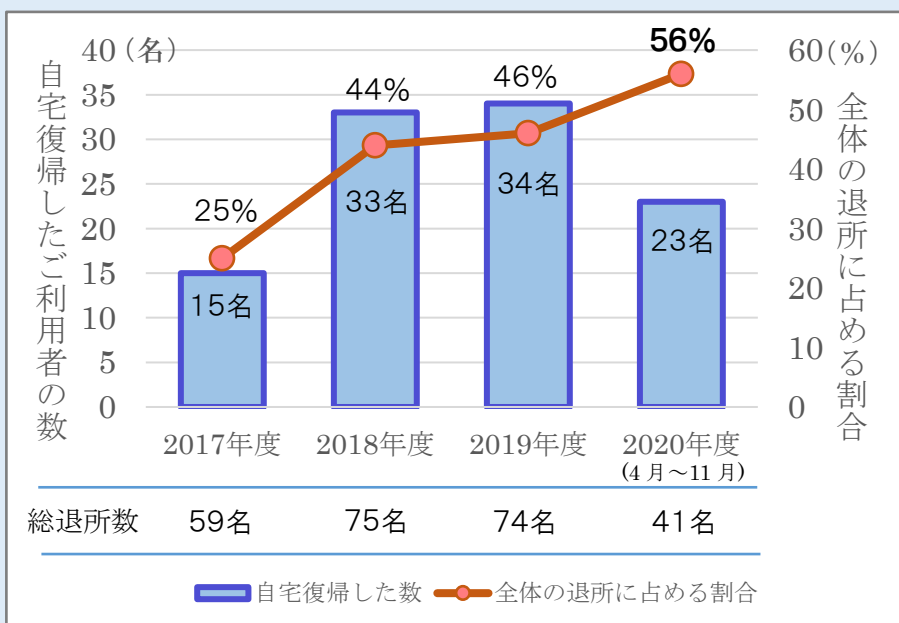


図1：自宅へ復帰したご利用者の数と割合の推移

予定表をもとに、施設での生活の中でも、ご自宅での生活を想定した指導を行います。トイレへ行く際に介助が必要であっても、必要な分だけの介助を行い、ご自身で行える動作はご自身で行ってもらおうよう促しています(生活リハビリ)。

生活リハビリを含め、リハビリや、課題解決の進捗状況をご家族にお伝えしながら、ご自宅への外出・外出泊を検討していきます。外出や外出泊時に新たな課題が見つかった際には、改めて予定表を見直し、リハビリプログラムの変更や、生活リハビリにおいて、なにを実施すべきであるかを検討し、新たな課題の解決を図ります。課題を解決し、ご利用者・ご家族が安心して自宅で過ごせるようになった際に、ご自宅へ退所の準備を行います。



図3：退所予定表作成から退所までの流れの例

ききょう苑では、ご利用者様やご家族様の双方が安心して、ご自宅に帰り、ご自宅での生活を継続できるように支援を継続しています。2018年度より、在宅へ帰ることが可能となったご利用者の数が増加し、その後も高い水準で維持しています。介護保険制度の改正も併い、2019年5月より、ききょう苑は、「在宅強化型」の老健に認められました。

今後も、ご利用者や地域住民が安心した生活を継続できる支援を行って参ります。

(入所事業部門 リハビリテーション部

主任 新倉 太一

友利 隆太)

初詣

ききょう苑神社



焼きいも会



創立記念秋祭りを実施しました！



〈お知らせ〉

「ききょう苑」創立20周年を迎え、ききょう苑のこれまでの歩みから、現在の取り組みなどをまとめた「20周年記念誌」を製作しました。すべて職員が想いを込めて手作業で作った冊子になっております。

数に限りがありますので、現在ききょう苑ホームページでもご覧になれるよう準備をしております。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。新年を迎え、「ききょう苑」は新型コロナウイルスの感染予防対策を強化しながらではありますが、ご利用者・ご家族・地域のみなさまと共に職員一丸となって貢献していきたいと考えております。

昨年、ききょう苑通信発刊から編集に携わってききました広報委員長が転勤となり、大変残念ではありますが、前任者の想いも引き継ぎながら、これからもみなさんに楽しみにしていただける広報誌をお届けしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(広報委員長代行 前田 大介)